

# ◎ 彙報

## 第六八回原爆文学研究会

- 日時 二〇二三年三月二十五日(土)
- 会場 福岡大学 ※ハイブリット形式で開催
- 研究発表1 詩誌「炮唄」の原爆表現

- 研究発表2 私の継承

——中学校国語における『原爆文学教材』研究

- ワークショップ「平和教育を問いなおす」  
鳥羽田 恵美子

報告1 平和教育における原爆体験の継承可能性／不可能性  
司会 後山 剛毅

報告2 平和教育のなかの原爆——長崎の事例を中心に  
後山 剛毅

報告3 物語ではない「平和教育」の歴史を語る  
新木 武志  
——同時代の教育の現場と関わってきた立ち位置からみつめる

西河内 靖泰

## 第六九回原爆文学研究会

- 日時 二〇二三年七月一日(土)
- Zoomを使ったオンライン形式
- 研究発表 教科書と「原爆文学」Ⅲ

- 原民喜「夏の花」を中心に  
中野 和典
- ワークショップ「大江健三郎と核のアクチュアリティ」  
司会 楠田 剛士

報告1 大江健三郎における〈沖縄体験〉

——ヒロシマ、オキナワ、アメリカと核

柳井 貴士

報告2 大江健三郎と市民運動

——「後期の仕事(レイト・ワーク)」を中心に  
南 徹貞

## 第七〇回原爆文学研究会

- 日時 二〇二三年二月九日(土)・一〇日(日)
- 会場 広島大学東千田未来創生センター M3003 講義室  
合人社ウエンディひと・まちプラザ

マルチメディアスタジオ北練6階

○共催 広島大学総合科学推進プロジェクト「核・原爆にまつわる表現の探究」・広島大学人間社会科学研究所ひろしま「平和研究」イニシアティブ・JSPS 科研費基盤研究(B)「環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究」・JSPS 科研費基盤研究(C)「植民暴力とデイクロナイゼーションから考える平和学」

【一日目】

- ワークショップ①「記録からひらく表現」

報告1 死んでもなお生きつづけること  
司会 中尾 麻伊香

報告2 How to Keep it in the Body  
小林 エリカ

——ヒロシマのアーカイブについて考える  
福田 恵  
コメント 柿木 伸之・山本 昭宏

【二日目】

- ワークショップ②「翻訳がたなく経験」  
——マーシャル、セミパラチンスク、広島」  
司会 川口 隆行・一谷 智子・溝瀨 園子・李文茹

- 『寡婦たちの村』上映会&ピクチャー・ブローウ監督トーク  
司会 松永 京子